

FISAE Newsletter

445
20.01.2025

Liebe Exlibrisfreunde

Aus Japan kommt die Nr. 181 (Januar 2025) des ‚The Nippon Exlibris Association Newsletter‘ mit einem English Summary, hier auch in Deutsch und Französisch.

Das Ehepaar Pungs gehörte ebenfalls viele Jahre zu den eifrigen Exlibris Sammlern in der Deutschen Exlibris Gesellschaft und wird vielen von uns in guter Erinnerung bleiben.

Rajmund Aszkowski orientiert betreffend eine internationale Ausschreibung ‚Universe in miniature‘ der Stadtbibliothek der polnischen Stadt Oleśnica.

Dear friends of ex-libris.

From Japan comes No. 181 (January 2025) of ‚The Nippon Exlibris Association Newsletter‘ with an English summary, here also in German and French.

Mr and Mrs Pungs were also keen ex-libris collectors in the German Ex-libris Society for many years and will be fondly remembered by many of us.

Rajmund Aszkowski informs about an international competition ‚Universe in miniature‘ organised by the Municipal Picture Library of the Polish town of Oleśnica.

Chers amis de l'ex-libris.

Du Japon nous vient le numéro 181 (janvier 2025) de la « Newsletter de la Nippon Exlibris Association » avec un résumé en anglais, ici aussi en allemand et en français.

Le couple Pungs a également fait partie pendant de nombreuses années des collectionneurs assidus d'ex-libris au sein de la Société allemande d'ex-libris et beaucoup d'entre nous en garderont un bon souvenir.

Rajmund Aszkowski nous informe d'un appel d'offres international 'Universe in miniature' de la photothèque municipale de la ville polonaise d'Oleśnica.

Cari amici di ex-libris.

Dal Giappone arriva il n. 181 (gennaio 2025) della “The Nippon Exlibris Association Newsletter” con un riassunto in inglese, qui anche in tedesco e francese.

I coniugi Pungs sono stati anche appassionati collezionisti di ex-libris nella German Ex-libris Society per molti anni e saranno ricordati con affetto da molti di noi.

Rajmund Aszkowski ci informa di un concorso internazionale “Universo in miniatura” organizzato dalla Pinacoteca comunale della città polacca di Oleśnica.

Queridos amigos de ex-libris.

Desde Japón llega el nº 181 (enero de 2025) del 'Boletín informativo de la Asociación Nippon Exlibris' con un resumen en inglés, aquí también en alemán y francés.

El Sr. y la Sra. Pungs fueron también durante muchos años entusiastas coleccionistas de exlibris en la Sociedad Alemana de Exlibris y serán recordados con cariño por muchos de nosotros.

Rajmund Aszkowski informa sobre un concurso internacional «Universo en miniatura» organizado por la Pinacoteca Municipal de la ciudad polaca de Oleśnica.

Drodzy przyjaciele ekslibrisu.

Z Japonii pochodzi nr 181 (styczeń 2025 r.) „Newslettera Nippon Exlibris Association” ze streszczeniem w języku angielskim, dostępnym tutaj również w języku niemieckim i francuskim.

Państwo Pungs byli również przez wiele lat zapalonymi kolekcjonerami ekslibrisów w Niemieckim Stowarzyszeniu Ekslibrisu i będą mile wspomniani przez wielu z nas.

Rajmund Aszkowski informuje o międzynarodowym konkursie „Wszechświat w miniaturze” organizowanym przez Miejską Bibliotekę Obrazów w Oleśnicy.

Дорогі друзі екслібрисисти.

З Японії надходить № 181 (січень 2025) «Інформаційного бюлетеня Асоціації Nippon Exlibris» із коротким викладом англійською мовою, тут також німецькою та французькою.

Пан і пані Пунги також були завзятими колекціонерами екслібрисів у Німецькому товаристві екслібрисів протягом багатьох років, і багато хто з нас буде з теплотою згадувати про них.

Раймунд Ашковський інформує про міжнародний конкурс «Всесвіт у мініатюрі», організований Муніципальною картинною бібліотекою польського міста Олесніца.

Дорогие друзья экслибриса.

Из Японии выходит № 181 (январь 2025 г.) «Информационного бюллетеня Ассоциации экслибриса Японии» с кратким изложением на английском языке, здесь также на немецком и французском языках.

Г-н и г-жа Пунгс также были увлеченными коллекционерами экслибриса в Немецком обществе экслибриса в течение многих лет, и многие из нас будут с любовью вспоминать их.

Раймунд Ашковски сообщает о международном конкурсе «Вселенная в миниатюре», организованном Мунципальной картинной библиотекой польского города Олесница.

親愛的圖書館朋友們

來自日本的《日本藏書票協會通訊》第 181 期（2025 年 1 月）附有英文摘要，這裡也有德語和法語版本。

Pungs 夫婦也是德國圖書館協會多年來熱衷的圖書館收藏者，我們許多人都會深深地記住他們。

Rajmund Aszkowski 通知了由波蘭 Oleśnica 市圖書館舉辦的「微縮宇宙」國際競賽。

親愛なるエクスリブリス友の皆さん。

日本からは、英語の要約とドイツ語とフランス語の要約が付いた「日本蔵書目録協会ニュースレター」第181号（2025年1月）が届きました。

プングス夫妻は、ドイツ・エクスリブリス協会の熱心なエクスリブリス・コレクターでもあり、私たちの多くが懐かしく思い出すことだろう。

Rajmund Aszkowskiは、ポーランドのOleśnicaの町の市立写真図書館が主催した国際コンクール「ミニチュアの宇宙」について紹介している。



Seniorenresidenz Freiburg (✠ Wolfgang Pungs 4. Oktober 1925-18. Juli 2023)

The Nippon Exlibris Association Newsletter

No. 181 (Jan., 2025)

THE NIPPON EXLIBRIS ASSOCIATION NEWSLETTER ISSN 1345-2771

日本書票協会通信 No.181

2025.1.1.発行 (第1頁発行)

発行所 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-15-11 龍昌ビル3階 日本書票協会
The Nippon Exlibris Association: Ryuzoh Building 3F, 1-15-11 Dogenzaka, Shibuya-ku, Tokyo 150-0043 JAPAN
Tel/Fax: 03(6416-9264) e-mail: nipponexlibris@nippo.com.jp *印刷はFaxまたはe-mailでもお受けしています。
URL: http://www.exlibris.jp

協会便り

係は会長がとりて「協会通信」を編集していますが、高齢のため、2024年度の「協会通信」(発行)はどのような形になるか不詳です。日本書票協会は定年定年として、2024年度の4月会費見直し時点で決定させて頂き、2025年6月に会員の皆様へ郵便でお知らせいたします。ご不便をおかけして申し訳ありません。

会員便り

●忘れられぬ一作 浜西勝則

今日までに500点もの多くの書票を国内外のコレクターの方々より依頼を頂き制作させて頂いた。版画家としての造詣の大判の写しと写真で近世に表現の感度を高きから取り上げるが書票ならではの魅力であり、また絵画制作とでも異なる一歩ごとにその制作に必要とするストーリーがありドラマを創り出しているのも読者の魅力でもある。

最近、印象に残っているのがアメリカ人のコレクター、ブリアン・ジョー(Brian Jones)の高に制作した作品である。知人の叔本氏からメールを頂いた。ジョーさんが叔本氏の彫像の下に生かされた「アオボリの木」をテーマに制作を依頼しているとのことであった。ジョーさんは叔本氏没後に遺稿に書かれたイスより多くの複製品を叔本氏に結びつけ複製を複製に受けたマルセル・ジュノー(Marcel Juno) (1901~1980)の彫像であった。このことを知り「アオボリの木」を調べたのが叔本山本。早速、叔本のイメージスケッチをジョーさんに送付したところ、その中の「アオボリの木」に感づいた平和祈念像を描いたスケッチを頂いた。その作品を制作後に父のマルセル・ジュノー 医師の遺稿に少し見せられた。

やがて叔本の彫像を叔本平和祈念像に改造されている氏の彫像を題材に描いた作品を頼まれた。ジョー様より多大なる御礼のお言葉を頂きました。作家冥利に尽きることであり忘れられぬ一作である。



● 故郷紀子さんの「木塚書票展」
2024年2月に発行された「木塚書票展」が叔本さんから日本書票協会へ御依頼されたので、感謝すると共に、協会の3部を下記の通りへ委託した：関西学院大学博物館、久米南阿蘇郡おびせ野の書票展(メールで発送し続けている)デンマークのKlara Borch氏、彼のPSS2 Newslettersの数は今年10月現在で421通。



第40回国際蔵書票連盟会議に参加して | 鹿取 武司

19年間にカタルーニャ協会が主催した第35回国際蔵書票大会が成功裏に終わり、今年マヨルカ島のバルムで第40回国際蔵書票大会が開催され、111人の参加者が集まり、261人の蔵書家が「平和のための蔵書票」コンペにエントリーし、合計80の作品を出品し、バルムで開催の蔵書票展に出品する1つの新行本が製本された。本誌や文化センター、本誌の資料館で展示および蔵書家が展示された。日本からは3名(吉本、庄、鹿取)の出席でした。マドリドからバスには、飛行機で約11時間、乗換となったバルムは乗降から車で10分の距離でした。大会は日曜日の朝9時から始まり、参加者は2日間、約70名、77名のスペイン代表の出席から始り、参加者が多い開催の高級な開催の開催もありました。

2日目は、午前9時にホテルをでて、ミロ美術館の見学から始まりました。ミロ美術館はミロの彫刻の産地であり、町と海が見えきる絶景の良い自然に、数棟の大きな建物がアトリエとしてあり、ここは作品よりも、製作現場のものを発見しており、絵画の絵巻、絵の具や絵筆、描いた時のまま保存されている。宿舎のそばまで移動して、書票の展示にも見える絵のギャラリーで、歴史的な展示もされていた。次に向かったのは、さらに高い山の山頂に建てられたペレグリンの修道院である。14世紀初頭の建築であり、当時バルムを支配していた王の邸宅の時、午後3時にはバルムに戻り、若い修道士の絵、そして絵画の交流会場が、町に隣りで開かれ、夕暮まで賑わった。交換会があった。

3日目は、終日交流会であった。地区一帯に及び交流会の中で、交流作業が熱心に行われた。今日が今回の大会の自慢である。各々の参加者は、若い人もいたが、年輩の方が多く印象だった。



特別陳列 「カラフル! 技でみる日本の蔵書票」

関西学院大学博物館 深谷佳那

関西学院大学博物館では2024年7月29日から9月14日に、特別陳列「カラフル! 技でみる日本の蔵書票」を開催しました。

- 関西学院大学博物館の原野コレクション
今までは原野資古氏が蒐集し、2007年に高松の歴史と文化を関西学院大学博物館蔵書に寄贈した原野コレクションの一部を紹介しました。蔵書票、豆本、小紙、その他図書資料からなるこのコレクションは総数2,000点を超え、現在もその整理と研究が進められています。今回は蔵書票の技法(版式)の観点から原野さんから蔵書票の図が取り多量複製の「カラフル」と題し、その特徴がよく表れる作品を出品しました。
- 展示概要と出品物
総30と29、日本の蔵書票の特徴は長辺の意がさかきにあります。そこで本展では、縦目紙、木目紙、メゾタン、メゾタン、シルクスクリーン、孔紙、製本紙、型紙、合紙、リトグラフの19の技法ごとに蔵書票を展示しました。メゾタンによる少々の塗りつけ、合紙が可能な1.5段の印刷の書き、版日本紙の紙とられた紙の編み、メゾタンの線が描く印刷物などがあり、それぞれ図式がどのように変化したか、また、蔵書票の複製技法のメゾタンで「書票展」を出品しました。複製品による一部本家本一色は複製品からは、蔵書票が道具として使われるのみならず、筆上りによって複製品が作られた複製品が、趣向を凝らした図式のものも多くあります。これらの複製品をとおして、向後ではなかなか手取らない図式や印刷物たちを再現していただきました。
- 来場者の感想
展示のアンケートによると、本展の蔵書票は20〜30年代の大学生や教員でした。展示の感想には「初めて蔵書票の複製品を見て嬉しい」「(30代・大学生)などの感想が寄せられています。また、オープンキャンパスの2日間に合わせて、5,800人にご来場いただき、高校生やその保護者の方々に蔵書票の魅力を伝える良い機会となりました。

今回の展覧会の内容をより充実させて、来年度2025年5月19日から7月19日に蔵書票の全面展覧会を行います。蔵書票や複製品、複製品の複製品などご来場される予定です。詳しい内容は今後ウェブサイトでお知らせいたしますのでQRコードからご確認ください。皆さまのご来場をお待ちしております。

上段 関西学院大学博物館 深谷佳那
下段 深谷佳那

会員便り

- 2024年度の蔵書票展の記録
★ 蔵書票の年寄2024展
会場：東京 京橋 マジックシティ
会期：2月29日〜3月26日
トークショー
「蔵書票の魅力」クワクリオの作家を中心に
出演者：坂本龍一、行田幸之介、白木暁
★ 蔵書票展別冊(日本書票協会蔵書票展別冊)
会場：札幌市 宝クォーター・オマージュ
会期：7月18日〜7月22日
★ 関西紀子、叔本氏の書票を中心に展示
★ 特別陳列「カラフル! 技でみる日本の蔵書票」
会場：関西学院大学博物館
会期：7月29日〜9月14日
くわしくは別紙をご覧ください

★ 第20回国際蔵書票連盟総会
会場：神戸市 トリアポルタ1-2階
会期：2025年10月10日
18名の作家が出品

★ 協会ホームページ更新の担当者
白西麗氏が協会ホームページを2018年3月から、事務局を2024年1月からは担当しています。事務局員は白西麗氏ですが、来期される場合は事務局にメールでご連絡ください。

【協会への寄附】
山内清太郎さんから30,000円の寄付金を受領しました。

【誌報】 2024年3月号が完成しました。
紙材 光 氏 2023年 4月22日 22歳
会費：2025年10月10日

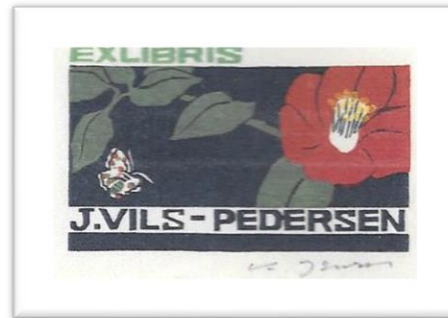
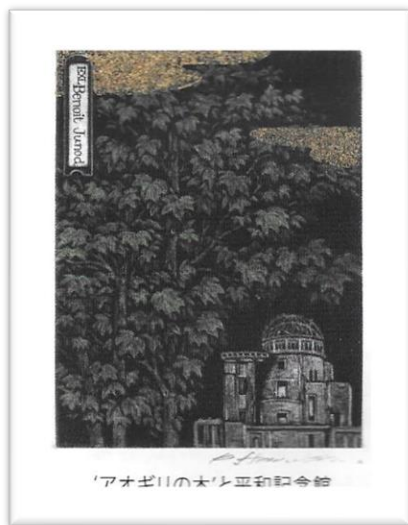
★ 船水英氏の2025年度 本展蔵書票展カレンダー
※ 印刷代、送料代、送料代込み、送料代
申し込みは下記へお問い合わせください。
TEL: 03-6416-9264 郵送先〒114 船水英氏
住所：大阪府守口市 船水英氏 住居
TEL/FAX: 011-777-1106

● 2025 Calendar

2025	2025
1月 1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日	2月 1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日

日本書票協会 第181号 目次	ページ
協会の便り	1
特別陳列「カラフル! 技でみる日本の蔵書票」	2
第40回国際蔵書票連盟会議に参加して	3
会員便り	4
第20回国際蔵書票連盟総会	5
第20回国際蔵書票連盟総会	6

次回の発行は 2025年6月 にお知らせします。



(NEA News) The membership fee of 2026 is still undecided. It will be announced to all members by letter in June, 2025.

Exlibris Benoit Junod, C3. The exlibris shows Aogiri trees which survived the atomic bomb and the Atomic Bomb Dome in Hiroshima. The exlibris was created by Katsunori Hamanishi who refers in the article to Dr. Marcel Junod. He became the first foreign doctor to reach the site after the atomic bomb in 1945. Hamanishi was introduced to Benoit Junod by Masahito Skamoto.

The exlibris X1 of J(ørgen) Vils Pedersen was created years ago by Kieko Tsurusawa. The exlibris was printed again in her Woodcut Exlibris in 2024. The book was donated by NEA to Klaus Rödel for his long-time bookplate activities.



A Report of the 40th FISAE congress at Palma, Majorca of Spain by Takeshi Katori. The photos are a scene of bookplate exchange and a view at Joan Miro Museum.

A Report of the Special Exhibition of Japanese Exlibris at the museum of Kwansei Gakuin University (July 29 – September 14, 2024) by Kana Fukaya. Photos are the university museum, a view of the university campus and the exhibition scenes.

A list of four exlibris exhibitions in 2024.

Mr. Masami Shiraishi is in charge of the Home Page of the NEA since 2018 and the office work of the NEA since 2024.

Obituary: Mr. Kozo Matsumura April 22, 2023 at the age of 82.

#The owl calendar 2025 by Akira Funamizu

The desk calendar 2025 by Hiromi Kinosé.

(NEA News) Der Mitgliedsbeitrag für 2026 steht noch nicht fest. Er wird allen Mitgliedern im Juni 2025 per Brief mitgeteilt.

Exlibris Benoit Junod, C3. Das Exlibris zeigt Aogiri-Bäume, die die Atombombe und die Atombombenkuppel in Hiroshima überlebt haben. Das Exlibris wurde von Katsunori Hamanishi erstellt, der sich in dem Artikel auf Dr. Marcel Junod bezieht. Er war der erste ausländische Arzt, der nach der Atombombe 1945 den Ort erreichte. Hamanishi wurde Benoit Junod von Masahito Skamoto vorgestellt.



Das Exlibris X1 von J(ørgen) Vils Pedersen wurde vor Jahren von Kieko Tsurusawa erstellt. Das Exlibris wurde 2024 erneut in ihrem Holzschnitt-Exlibris gedruckt. Das Buch wurde von NEA an Klaus Rödel für seine langjährige Exlibris-Arbeit gespendet.

Ein Bericht über den 40. FISAE-Kongress in Palma de Mallorca in Spanien von Takeshi Katori. Die Fotos zeigen eine Szene des Exlibris-Austauschs und einen Blick in das Joan Miro Museum.

Ein Bericht über die Sonderausstellung japanischer Exlibris im Museum der Kwansei Gakuin Universität (29. Juli – 14. September 2024) von Kana Fukaya. Die Fotos zeigen das Universitätsmuseum, einen Blick auf den Universitätscampus und die Ausstellungsszenen.

Eine Liste von vier Exlibris-Ausstellungen im Jahr 2024.

Herr Masami Shiraishi ist seit 2018 für die Homepage der NEA und seit 2024 für die Büroarbeit der NEA verantwortlich.

Nachruf: Herr Kozo Matsumura, 22. April 2023 im Alter von 82 Jahren.

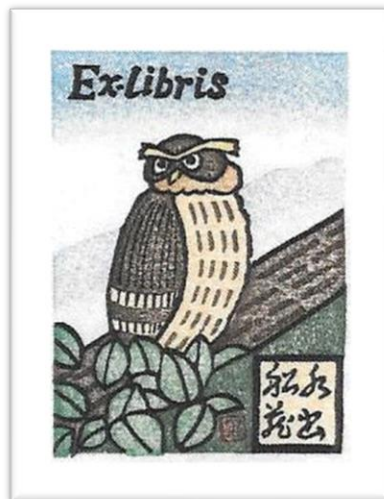
#Der Eulenkalendar 2025 von Akira Funamizu

Der Tischkalendar 2025 von Hiromi Kinosé.

(NEA News) La cotisation de 2026 n'est pas encore fixée. Elle sera annoncée à tous les membres par courrier en juin 2025.



Ex-libris Benoit Junod, C3. L'ex-libris montre des arbres Aogiri qui ont survécu à la bombe atomique et au dôme de la bombe atomique à Hiroshima. L'ex-libris a été créé par Katsunori Hamanishi qui fait référence dans l'article au Dr Marcel Junod. Il est devenu le premier médecin étranger à atteindre le site après la bombe atomique en 1945. Hamanishi a été présenté à Benoit Junod par Masahito Skamoto.



L'ex-libris X1 de J(ørgen) Vils Pedersen a été créé il y a des années par Kieko Tsurusawa. L'ex-libris a été réimprimé dans son ex-libris Woodcut en 2024. Le livre a été donné par NEA à Klaus Rödel pour ses activités de longue date en ex-libris.

Un compte-rendu du 40e congrès de la FISAE à Palma, Majorque en Espagne par Takeshi Katori. Les photos sont une scène d'échange d'ex-libris et une vue au musée Joan Miro.

Un compte-rendu de l'exposition spéciale d'ex-libris japonais au musée de l'université Kwansai Gakuin (du 29 juillet au 14 septembre 2024) par Kana Fukaya. Les photos sont le musée de l'université, une vue du campus universitaire et les scènes d'exposition.

Une liste de quatre expositions d'ex-libris en 2024.

M. Masami Shiraishi est responsable de la page d'accueil de la NEA depuis 2018 et du travail de bureau de la NEA depuis 2024.

Nécrologie : M. Kozo Matsumura le 22 avril 2023 à l'âge de 82 ans.

Le calendrier des hiboux 2025 par Akira Funamizu

Le calendrier de bureau 2025 par Hiromi Kinosé.



Hildegard & Wolfgang Pungs

Auch dieses Sammler-Ehepaar gehörte zu den treuen Mitgliedern der Deutschen Exlibris Gesellschaft, die so gut wie an jedem Jahrestreffen teilgenommen haben und an die auch heute noch in Verbindung mit Tagungen gedacht wird. Für beide gilt, dass sie vor allem großzügig getauscht haben, nicht zuletzt Anfängern gegenüber. Leider sind beide verstorben.

Hier kommen Textauszüge des Kataloges, der in Verbindung mit der Ausstellung der Beiden im Frederikshavn Kunstmuseum erschien.



Karel Benes, CZ



Utz Benkel, D



Utz Benkel, D

Hildegard Pungs wurde in München geboren und besaß aus Familienbesitz eine umfangreiche Sammlung von Heiligenbildern aus allen Ländern, die durch Zukäufe auf Flohmärkten und in Klöstern weiter ergänzt wurde. Im Laufe der Zeit kam sie dann zu der Einsicht, dass man bei diesen Heiligenbildern selbst keinen Einfluss auf die Gestaltung nehmen kann (ihr Beruf war Architektin). Dabei kam ihr in den Sinn, dass diese Möglichkeit bei Exlibris als Bucheigner wesentlich besser gegeben ist und sie erinnerte sich, dass ihre Mutter schon einmal Exlibris gezeigt hatte,



Teresa Costa-Gramunt, E



Josef Dudek, CZ

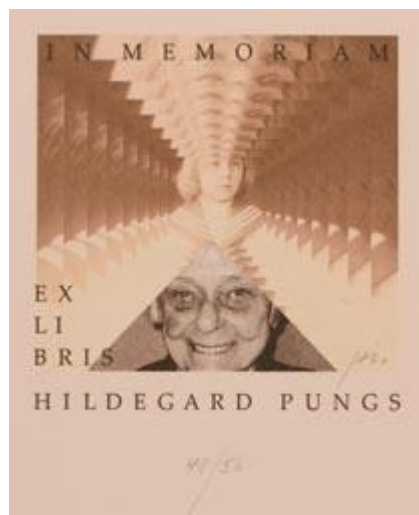


Vasyl Fenchak, UA

die diese als junges Mädchen statt Autogrammen von Schauspielern in München erhalten hatte. So übergab sie ihrer Tochter einen Schuhkarton voll mit Exlibris und dies war für Hildegard der Anfang der Tätigkeit als Sammlerin.



Marianne Grootaers, B



Peter Israel, D



Wojciech Jakubowski, PL

Es folgte zunächst der Kontakt zur Deutschen Exlibris Gesellschaft (DEG) und die Mitgliedschaft ab 1983 mit dem ersten Exlibris, das Rudolf Rieß für sie machte. Durch den damaligen Wohnort in der Nähe von Köln waren die Exlibris Treffen in den Niederlanden und Belgien nicht weit und damit die Mitgliedschaften bei Exlibriswereld und Graphia. Dazu kamen dann später im SELC in der Schweiz und ÖEG in Österreich, nachdem die Tochter in die Schweiz geheiratet hatte. Ein großer Teil der ersten Exlibris von Hildegard wurde von den Künstlern in der damaligen Tschechoslowakai gestaltet und jedes Jahr wurden die Jahrestreffen der dortigen Exlibris Gesellschaft besucht. Themen für die Exlibris waren vielfach Blumen, Tiere und in den letzten Jahren vor allem die Arche Noah in unterschiedlichen Darstellungen. Sie besaß schließlich 196 Eigenblätter und etwa 18.000 Exlibris.



Wojciech Jakubowski, PL



Konstantin Kalynovych, UA



Jelena Kisseljova, RUS / D

Nach seiner Pensionierung begleitete Wolfgang Pungs seine Frau zu Tagungen und wurde 1990 auch Mitglied der DEG, sogar deren Schatzmeister von 1992 bis 1996. Er war auch Mitglied in der Schweiz und in Österreich und es gibt insgesamt 164 Exlibris auf seinen Namen



Peter Kocak, SK



Elly de Koster, NL



Helga Lange, D

This collector couple also belonged to the loyal members of the German Exlibris Society, who took part in almost every annual meeting and are still remembered today in connection with conferences. It is true of both of them that they were generous in their exchanges, not least to beginners. Unfortunately, both have passed away.

Here are excerpts from the catalogue that was published in connection with their exhibition at Frederikshavn Art Museum.

Hildegard Pungs was born in Munich and had an extensive family collection of paintings of saints from all over the world, which she added to through purchases at flea markets and in monasteries. Over time, she came to the realisation that she could not influence the design of these images of saints herself (her profession was an architect). It occurred to her that this possibility was much better with bookplates as book owners and she remembered that her mother had once shown her bookplates that she had received as a young girl instead of autographs from actors in Munich. So she gave her daughter a shoebox full of ex-libris and this was the beginning of Hildegard's work as a collector.



Andreas Raub, D



Hedwig Pauwels, B



Willy Richter, D

This was followed by contact with the German Exlibris Society (DEG) and membership from 1983 with the first ex-libris that Rudolf Rieß made for her. As she lived near Cologne at the time, ex-libris meetings in the Netherlands and Belgium were not far away, which led to memberships of Exlibriswereld and Graphia. This was later joined by the SELC in Switzerland and ÖEG in Austria after his daughter married in Switzerland. A large proportion of Hildegard's first ex-libris



Karel Šafar, CZ



Eugenia Timoshenko, UA



Hermann Huffert, D

were designed by artists in the former Czechoslovakia and the annual meetings of the ex-libris society there were attended every year. Themes for the ex-libris were often flowers, animals and in recent years especially Noah's Ark in various depictions. Finally, she owned 196 of her own sheets and around 18,000 bookplates.

After his retirement, Wolfgang Pungs accompanied his wife to conferences and also became a member of the DEG in 1990, even becoming its treasurer from 1992 to 1996. He was also a member in Switzerland and Austria and there are a total of 164 bookplates in his name.



David Bekker, UA



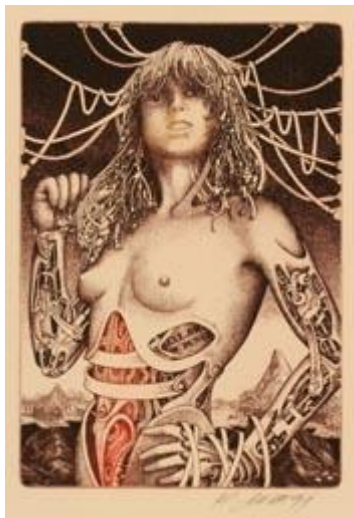
Karel Benes, CZ



Natalija Černetsova, LV

Ce couple de collectionneurs faisait lui aussi partie des membres fidèles de la Deutsche Exlibris Gesellschaft, qui ont participé à presque toutes les réunions annuelles et dont on se souvient encore aujourd'hui en relation avec les réunions. Tous deux ont surtout échangé généreusement, notamment avec les débutants. Malheureusement, tous deux sont décédés.

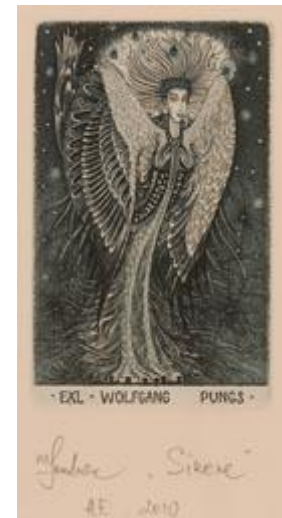
Voici des extraits du catalogue publié à l'occasion de leur exposition au musée d'art de Frederikshavn.



Josef Dudek, CZ



Josef Dudek, CZ



Vasyl Fenchak, UA

Hildegard Pungs est née à Munich et possédait une vaste collection familiale d'images saintes de tous les pays, qu'elle a complétée par des achats sur les marchés aux puces et dans les monastères. Au fil du temps, elle est arrivée à la conclusion qu'il n'était pas possible d'influencer la conception de ces images sacrées (son métier était celui d'architecte). Il lui est alors venu à l'esprit que cette possibilité était bien plus grande pour les ex-libris en tant que propriétaires de livres et elle s'est souvenue que sa mère avait déjà montré des ex-libris qu'elle avait reçus dans sa jeunesse à la place d'autographes d'acteurs à Munich. Elle a donc remis à sa fille une boîte à chaussures remplie d'ex-libris et ce fut pour Hildegard le début de son activité de collectionneuse.

Il s'ensuivit d'abord un contact avec la Deutsche Exlibris Gesellschaft (DEG) et l'adhésion à partir de 1983 avec le premier ex-libris que Rudolf Rieß réalisa pour elle. Comme elle habitait à l'époque près de Cologne, les rencontres d'ex-libris aux Pays-Bas et en Belgique n'étaient pas loin



Sergiy Ivanov, UA



Wojciech Jakubowski, PL



Julian Jordanov, BG

et donc les adhésions à Exlibriswereld et Graphia. S'y sont ajoutés plus tard le SELC en Suisse et l'ÖEG en Autriche, après le mariage de sa fille en Suisse. Une grande partie des premiers ex-libris de Hildegard ont été créés par des artistes de l'ancienne Tchécoslovaquie et chaque année, ils ont participé à la réunion annuelle de la société d'ex-libris locale. Les thèmes des ex-libris étaient souvent les fleurs, les animaux et, ces dernières années, surtout l'arche de Noé dans différentes représentations. Elle possédait finalement 196 feuilles personnelles et environ 18 000 ex-libris. Après sa retraite, Wolfgang Pungs a accompagné sa femme à des congrès et est également devenu membre de la DEG en 1990, et même son trésorier de 1992 à 1996. Il a également été membre en Suisse et en Autriche et il existe au total 164 ex-libris à son nom.



Jan Kavan, CZ



Konstantin Kalynovych, UA



Philipp Roger Keller, CH



Herbert Kisza, CZ



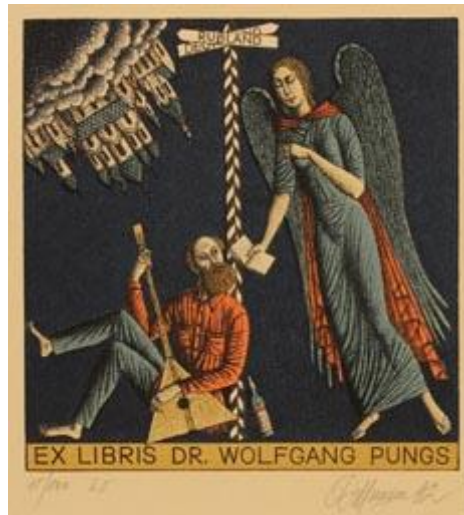
Elly de Koster, NL



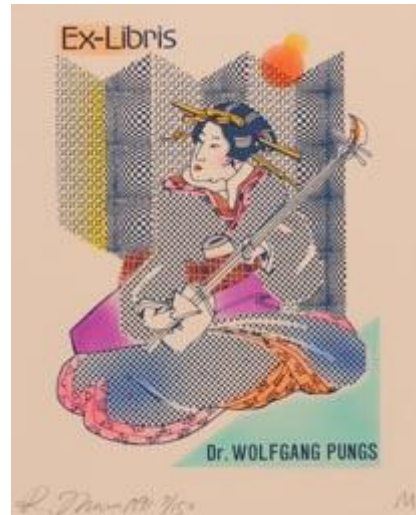
Marius Liugaile, LT



Wojciech Luczak, PL



Valerij Mischin, RUS



Ryoichi Murawawa, J



Hristo Naidenov, BG



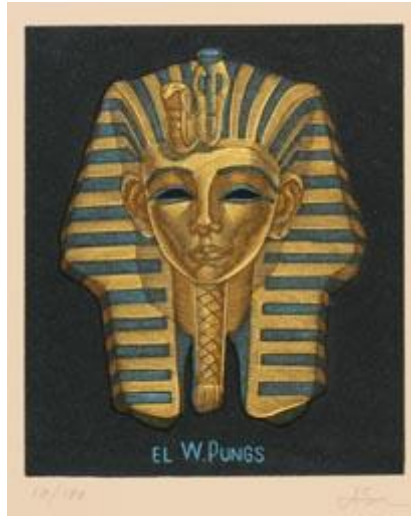
Hedwig Pauwels, B



Arkady Pugachevsky, UA



Gennady Pugachevsky, UA



Alexander Savitch, RUS



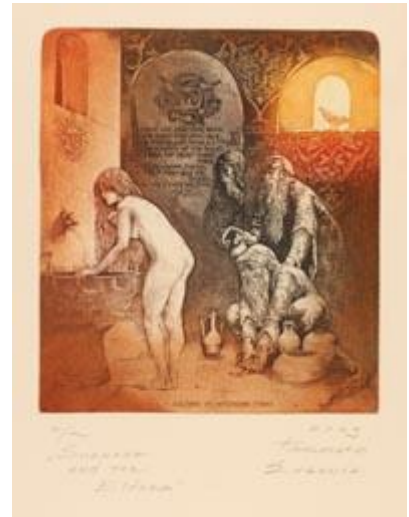
Renata Simlikova, CZ



Renata Simlikova, CZ



Hilde Stevens, B



Eugenia Timoshenko, BY



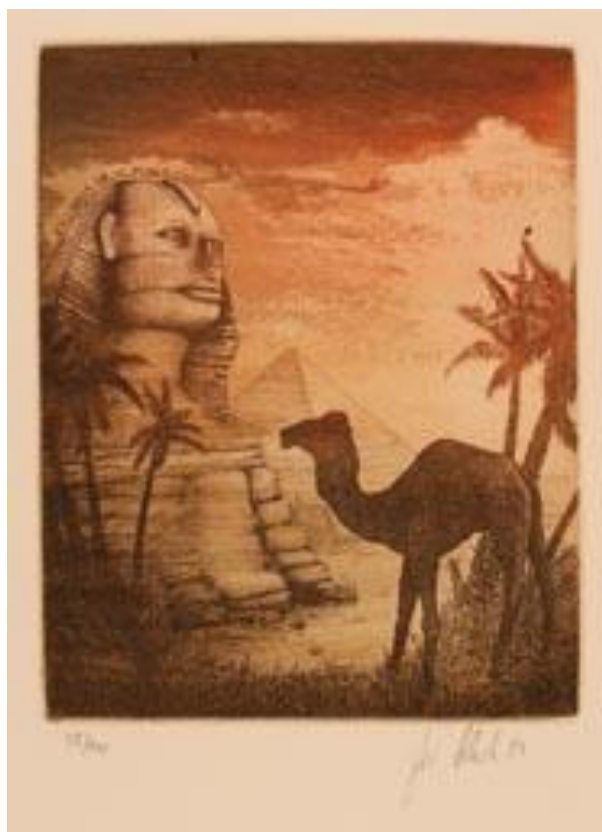
Eugenia Timoshenko, BY



Zoltan Vén, H



Gennady Verechagin, UA



Jiří Vlach, CZ



Motoi Janagida, J



Oleśnica

Regulations of the XIV International exhibition of exlibris and small graphic forms "Universe in miniature "

1. The aim of the exhibition is to present the works of artists from various countries.
2. The aim of the exhibition is to present works at the highest artistic level, inspired by the theme proposed by the Public Library of Oleśnica.
3. Each participant of the exhibition will receive occasional publications promoting the exhibition.
4. Please send 2 works maximum.
5. Works in 2 identical prints should be made in any graphic or drawing technique. The maximum size of works is A4.
6. The condition for accepting the works for the exhibition is sending in the e-mail attachment a completed application form and the scan of works in pdf format, 600 dpi.
7. Together with the application form, the author submits a scan of the works to the following e-mail address: sekretariat@bibliotekaolesnica.pl; or b.szukalska@bibliotekaolesnica.pl
8. The exhibition will present works that refer to its title. The organizer decides whether the submitted work will be included in the exhibition.
9. Works that do not meet the requirements of the exhibition regulations will not be included. The author will be informed about it in a separate email.
10. The deadline for sending the work and the application form expires : 31.03.2025

11. Works should be sent to the following address:
Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja
ul. M. Reja 10
56-400 Oleśnica
12. All works sent by the authors go to the collection of Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja/The Mikolaj Rej Public Library of Oleśnica.
13. The organizer is not responsible for any damage resulting from transport.
14. The vernissage will take place in Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja. Deadline to be agreed.
15. The application form is available for download at www.biblioteka.olesnica.pl
16. Please provide your exact address of residence.
17. If you put several works in an envelope, please provide the quantity on the envelope.

Reglement der XIV. Internationalen Ausstellung von Exlibris und kleinen grafischen
Formen
„Das Universum in Miniatur“

1. Ziel der Ausstellung ist es, die Werke von Künstlern aus verschiedenen Ländern zu präsentieren.
2. Ziel der Ausstellung ist es, Werke auf höchstem künstlerischen Niveau zu präsentieren, die von dem von der Öffentlichen Bibliothek Oleśnica vorgeschlagenen Thema inspiriert sind.
3. Jeder Teilnehmer an der Ausstellung erhält gelegentlich Veröffentlichungen zur Förderung der Ausstellung.
4. Bitte senden Sie maximal 2 Werke ein.
5. Die Werke in 2 identischen Abzügen sollten in jeder grafischen oder zeichnerischen Technik angefertigt sein. Die maximale Größe der Werke ist A4.
6. Die Bedingung für die Annahme der Werke für die Ausstellung ist die Übersendung eines ausgefüllten Anmeldeformulars und eines Scans der Werke im pdf-Format, 600 dpi, im E-Mail-Anhang.
7. Zusammen mit dem Anmeldeformular sendet der Autor einen Scan des Werks an folgende E-Mail-Adresse: sekretariat@bibliotekaolesnica.pl; oder b.szukalska@bibliotekaolesnica.pl.
8. In der Ausstellung werden Werke gezeigt, die sich auf den Titel der Ausstellung beziehen. Der Organisator entscheidet, ob das eingereichte Werk in die Ausstellung aufgenommen wird.

9. Werke, die den Anforderungen des Ausstellungsreglements nicht entsprechen, werden nicht aufgenommen. Der Autor wird darüber in einer separaten E-Mail informiert.

10. Die Frist für die Einsendung des Werkes und des Anmeldeformulars läuft ab: 31.03.2025

11. Die Arbeiten sind an die folgende Adresse zu senden:

Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja
ul. M. Reja 10
56-400 Oleśnica

12. Alle von den Autoren eingesandten Werke gehen in die Sammlung der Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja/Die Öffentliche Bibliothek Mikolaj Rej in Oleśnica.

13. Der Veranstalter haftet nicht für Schäden, die durch den Transport entstehen.

14. Die Vernissage findet in der Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja statt. Der Termin wird noch vereinbart.

15. Das Anmeldeformular steht unter www.biblioteka.olesnica.pl zum Download bereit.

16. Bitte geben Sie Ihre genaue Wohnanschrift an.

17. Wenn Sie mehrere Werke in einen Umschlag stecken, geben Sie bitte die Anzahl auf dem Umschlag an.

Règlement de la XIV^e exposition internationale d'exlibris et de petites formes
graphiques
« Univers en miniature

1. L'exposition a pour but de présenter les œuvres d'artistes de différents pays.

2. L'objectif de l'exposition est de présenter des œuvres du plus haut niveau artistique, inspirées par le thème proposé par la Bibliothèque publique d'Oleśnica.

3. Chaque participant à l'exposition recevra des publications occasionnelles promouvant l'exposition.

4. Veuillez envoyer 2 œuvres au maximum.

5. Les œuvres en 2 tirages identiques doivent être réalisées dans n'importe quelle technique graphique ou de dessin. Le format maximum des œuvres est le A4.

6. La condition d'acceptation des œuvres pour l'exposition est l'envoi en pièce jointe à l'e-mail d'un formulaire de candidature dûment rempli et du scan des œuvres au format pdf, 600 dpi.

7. En même temps que le formulaire de candidature, l'auteur envoie un scan des œuvres à l'adresse électronique suivante : sekretariat@bibliotekaolesnica.pl ; ou b.szukalska@bibliotekaolesnica.pl.

8. L'exposition présentera des œuvres faisant référence à son titre. L'organisateur décide si l'œuvre soumise sera incluse dans l'exposition.
9. Les œuvres qui ne répondent pas aux exigences du règlement de l'exposition ne seront pas incluses. L'auteur en sera informé par un courriel séparé.
10. Le délai d'envoi de l'œuvre et du formulaire de candidature expire le 31.03.2025.
11. Les œuvres doivent être envoyées à l'adresse suivante :
 Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja
 ul. M. Reja 10
 56-400 Oleśnica
12. Toutes les œuvres envoyées par les auteurs sont versées à la collection de la Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja/La Bibliothèque publique Mikolaj Rej d'Oleśnica.
13. L'organisateur n'est pas responsable des dommages résultant du transport.
14. Le vernissage aura lieu à la Oleśnicka Biblioteka Publiczna im. Mikołaja Reja.
 Date limite à convenir.
15. Le formulaire de candidature peut être téléchargé à l'adresse suivante :
www.biblioteka.olesnica.pl
16. Veuillez indiquer votre adresse de résidence exacte.
17. Si vous mettez plusieurs œuvres dans une enveloppe, veuillez indiquer la quantité sur l'enveloppe.



Oleśnica - Oels - Eels ca. 1650



Mariana Myroshnychenko



Ukraine for ever



Worldwide! – also Gaza



Fecit Stanislav Hlinovsky, CZ, 1972

FISAE Newsletter

© Klaus Rödel, Nordre Skanse 6, DK 9900 Frederikshavn, ☎ +45 2178 8992 ▪ E-mail: klaus@roedel.dk